

只見町を会場に人気番組のイベント開催

「水曜どうでしょうキャラバン2017」

9月17日、北海道テレビ放送の人気バラエティ番組「水曜どうでしょう」の名物ディレクター藤村さんや嬉野さんなど番組スタッフが地方のファンに会いに行く企画「水曜どうでしょうキャラバン2017」が只見町の町下運動広場を会場に開催され、台風18号が近づくあいにくの天候の中、全国から約1500名が来場しました。このキャラバンは東北～関東地方までの11県で開催され、只見町は福島県会場として実施したものです。

イベントではトークショー、ライブ、イワナのつかみどり、ミニ運動会など多彩な催しが行われた他、インターネット配信「ニコニコ生放送」で全国に放送され約6万人が視聴し、只見町のPRに繋がりました。



▲ステージで只見町をPRする菅家町長



▲受賞報告した高野さん(中)と報告を受けた菅家町長(左)と橋本副町長(右)

昭和漫画館青虫館長の高野さんが受賞報告

文化庁メディア芸術祭で「功労賞」

9月26日、第20回文化庁メディア芸術祭で「功労賞」を受賞された昭和漫画館青虫館長の高野行央さんが役場を訪れ、菅家町長に受賞報告を行いました。

報告では、高野さんが9月に東京で行われた文化庁メディア芸術祭の贈呈式で受けた賞状や記念品を菅家町長へ披露し、菅家町長は「大変名誉な賞であり、益々の活躍に期待します」と述べました。受賞についての詳細は広報ただみ4月号(No.563号)P14をご覧ください。

稲刈り農業体験イベント

「KARIYASU'17 100人手刈り」を開催

9月23日、今年5月に季の郷湯ら里前の田んぼに植えた稲を手刈りする農業体験イベント「KARIYASU'17・100人手刈り」が同会場で行われ、町内外から約100名が参加しました。これは町内の農業法人(株)ライズサプールと(有)さんべ農園が主催するイベントで、今年で開催3回目を迎えました。黄金色に染まった会場で、参加者は地元農家と一緒に手刈りやはぜ掛けなどを体験し、稲刈り作業を楽しんでいました。また、今年から希望により収穫したお米を「米焼酎ねっか」として受け取れるサービスや、地元高校生が米づくりと酒造りを体験し完成した酒を成人の日にプレゼントする「18歳の酒project」も企画されました。



▲泥だらけになりながら手刈り体験を楽しんだ参加者の皆さん

今年三条市、長岡市栃尾、いわき市、長野県埴科郡坂城町の名物が参加 「第12回只見駅前通りウキウキわいわいフェスタ」開催

9月3日、「只見駅前通りウキウキわいわいフェスタ」が行われ、多くの来場者で賑わいました。今年のイベントは、長野県埴科郡坂城町の「千曲川坂城陣太鼓」の方々が鬼の装いで力強い太鼓を披露した他、神輿や大竹涼華さん（只見字田中在住）の弾き語りライブ、豊年おどりや抽選会など多くの催しが行われました。また会場では、新潟県三条市の「笹団子」や同県長岡市栃尾の「油揚げ」、福島県いわき市の「ウニの貝焼き」などが出店し、来場者は各地の名物を味わいながらイベントを楽しんでいました。



▲鬼の装いで子どもたちと触れ合い会場を盛り上げた長野県埴科郡坂城町「千曲川坂城陣太鼓」の皆さん



▲「わっしょい!」と大きなかけ声で練り歩いた子どもみこし

花と緑いっぱいのふるさとづくりプロジェクト 明和小学校に花壇を設置



▲セレモニーに参加した明和小児童と関係者の皆さん

8月29日、福島民友新聞社などが主催する「花と緑いっぱいのふるさとづくりプロジェクト」の花壇完成セレモニーが明和小学校で行われ、同校全児童67名と関係者が参加しました。この事業は、来年春に南相馬市で開かれる全国植樹祭のプレイベントとして行われたもので、県内の市町村に花壇を整備するというものです。只見町では明和小の旧校舎跡地に花壇が整備され、町の花・コブシと県の花・ネモトシヤクナゲなどが植樹されました。セレモニーでは、1年の三瓶煌羽^{こうは}くん^{めい}と大東芽生^{めい}さんなどが植樹を行い、花壇の前で6年の菊地結雅^{ゆうが}くん^{あいら}と角田愛莉^{あいら}さんが「花いっぱいの町にしたい」と力強く宣言し、全国植樹祭の機運を高めました。

只見町と魚沼市のJR只見線沿線地域が交流!

第3回只見線応援ソフトボール大会で只見町が優勝!

9月2日、新潟県魚沼市の“だんだんど〜も只見線沿線元気会議”が主催する「第3回只見線応援ソフトボール大会」が魚沼市立守門中学校の校庭で行われ、只見町チームが見事優勝を飾りました。大会には只見駅から小出駅までのJR只見線沿線地域の6チームが出場し、只見線を活用した大会が行われ、沿線地域の交流が深められました。



▲第3回大会に参加した選手の皆さん

3地区で交通安全を呼びかけ 小学校交通安全 鼓笛パレード

秋の全国交通安全運動期間(9月21日～30日)にあわせ、各小学校で鼓笛パレードが行われました。各小学校とも素晴らしい演奏を披露し、沿道に集まった多くの方々に交通事故防止を呼びかけました。



只見小学校(9月20日)



朝日小学校(9月22日)



明和小学校(9月25日)

只見町ブナセンター

ブナセンター講座

「只見町の湿原 - 植生からみた多様性」

9月23日、只見町の湿原をテーマにしたブナセンター講座が同施設で開かれ、16名が参加しました。講師に森林総合研究所の菊地賢氏を迎え、只見自然環境基礎調査事業として実施した町内全域の湿原の調査結果についての報告と、一般的な湿原の成立過程や湿原にみられる代表的な植物、調査を行った町内7ヶ所の湿原の特徴などについて解説されました。

参加者は、只見町の湿原とその植生の多様性について理解を深め、今後も湿原を適正に評価・保全していく必要性を改めて認識することができました。



▲熱心に受講する参加者の皆さん



▲湿原の説明を聞く参加者

自然観察会

「八十里越の化ケ物谷地に行こう」

9月24日、特別企画展「只見の湿原」の関連行事として自然観察会を開催し、会津と越後をつなぐ重要な交通路として使われていた八十里越の明治新道をたどって化ケ物谷地を目指すコースで行われました。18名の参加者はキバナアキギリやタイリンヤマハッカなど秋の花を観察しながら峠道を歩き、化ケ物谷地では湿地の形成過程や湿原の植生について説明を受けました。参加者からは「コースはきつかったが本物の自然に触れられてよかった」との声が聞かれました。

南会津地方広域少年婦人防火クラブ委員会 宝くじ助成で消火訓練器具を整備

宝くじの社会貢献広報事業の「コミュニティ助成事業」を活用し、南会津地方広域消防本部内「南会津地方広域少年婦人防火クラブ委員会」が消火訓練器具を整備しました。整備した器具は「消火体験装置」、「訓練用消火器」、「訓練用のまと」で、9月9日に南会津町で行われた第13回南会津救急フェアの消火体験にも活用されました。町内でも消火訓練などの体験が可能ですので、詳しくは消防署只見出張所までお問合せください。



▲(写真/救急フェアでの消火体験)体験のお問合せは消防署只見出張所(Tel.0241-84-2119)まで

明和地区・小林明朗会見守り隊 防犯活動従事着用制服交付式

8月24日、小学生の登下校など地域の防犯活動を実施している小林明朗見守り隊の「防犯活動従事着用制服交付式」が明和振興センターで行われ、明和駐在所の五十嵐勇貴巡査長と見守り隊10名が出席しました。交付式では、県警の防犯活動に対する補助事業で購入した制服(ベスト、腕章、帽子)が五十嵐巡査長から見守り隊の皆さんへ手渡されました。見守り隊の活動は今年で10年目を迎え、これからも駐在所などと連携しながら地域の安全のために活動していきます。



▲新しい制服を交付した五十嵐巡査長(中)と受け取った制服を着用する見守り隊の皆さん

明和小児童が土器焼にチャレンジ! 会津只見考古館で土器焼き講座

9月3日、会津只見考古館の「土器焼き講座」が同館で行われ、明和小学校5・6年生16名が参加しました。この講座は、6月27日に行われた明和小の体験学習「明和発見タイム」の中で作成した土器を完成させるために開催されたものです。講座では大倉の菅家ナツさんを講師に迎え、縄文・弥生時代と同じ野焼きの方法で土器焼きを体験しました。児童の皆さんは、完成した土器を見て喜びの声をあげていました。



▲完成した土器を手にする明和小5・6年生の皆さん

地域との交流を深める 「福祉の里夏まつり」開催

8月27日、只見ホーム・あさくさホーム・こぶし苑など福祉の里エリアの関係施設が共同で開催する「第2回福祉の里夏まつり」があさひヶ丘前庭広場で開催され、多くの来場者で賑わいました。まつりの中では只見地区なんでもチャレンジ隊(只見小)の皆さんがやぐらの上で見事なお囃子を披露し、そのお囃子に合わせて福祉施設入所者の方々や地域住民が輪になって踊り、交流を深めていました。



▲会津磐梯山などのお囃子に合わせて踊る皆さん